



「常に東北に关心を」

谷副大臣一被災地の現状講演

市民センター



Dining Cafe
Disaster Prevention Center
079-6593-2170

谷副大臣は、原発問題について「処理できるのは早くとも30年後になる」と説明。津波で自宅を失い、仮設住宅に住む被災者がストレスをためている現状について講演した。親子連れら約60人が参加し、災害についての備えと復興への携わり方に耳を傾けた。

三田市の防災対策にも触れ、「三田が絶対安全ということはない。常に水や食料の予備をすることが大切」と話した。最後に「同じ年代の子どもたちがどういう生活を送っているのか、常に東北に关心を持つてほしい」と、子どもたちに呼び掛けた。

(村上亮宏)